

9pwe"77

こもーザの花と太陽

秋田雨

太陽 八二行分

和達が眼を醒した時ハパスハ(復活祭)の鐘

が所々に響き渡りてゐた。この國の復活祭

は、盛んに はや 宗長の形骸にしかたき

あつたので はありたが、鐘の音は習慣的に祝

祭の息をきかへるものでありた。

和達も昨夜は何時間眠りたのであらう。

集体の調子では僅か三時間ほどしか眠りてゐ

たのであつたが、和達は、あの若いイタ

リィ^{やう来た}と文藝者の担^か当^りをきこまうまに^して、

長の間敷帯をかけたのでありた。そのは、文

化舞妓に對する演劇運動の^{方法}といふや

うも聞知^りてありた。理論的には和達はお互に

ちがひた見解を持てゐる。^譯はあ、ありた

が、實際の問題にのりては全くちがひた結

論が生れて来たのでありた。和達はお互にテ

ィブルを叩き、頬を赤くして論じ合つた。今朝

聲を仰まし、